

# 自然観察会「城ヶ島の地層」開催報告

柴田健一郎<sup>1)</sup>・三浦半島活断層調査会<sup>2)</sup>

## 1. はじめに

2008年5月10日に、「地質の日記念行事」ならびに「2008国際博物館の日記念事業」として、自然観察会「城ヶ島の地層」が開催されました。この行事は横須賀市自然・人文博物館と三浦半島活断層調査会が共同で開催したイベントです。当日はあいにくの雨模様でしたが、一般の参加者28名、活断層調査会の会員18名、計46名の参加がありました。参加者の多くは50代以上でしたが、小学生を含む家族連れの参加者も目立ちました。

## 2. 城ヶ島について

三浦半島の南端に位置する城ヶ島は、地層の露出がよく、さまざまな堆積構造・地質構造が見られることから、地層の学習には最適な場所の1つです。その一方で現在でも活発に調査研究が行われており、日本の地質百選にも選ばれています(全国地質調査業協会連合会・地質情報整備・活用機構, 2007)。城ヶ島には三浦層群の三崎層と初声層が露出しています。おもにシルト岩とスコリア凝灰岩の互層からなる三崎層は、およそ1,000万年前から470万年前に水深2,000m以上の深海で堆積し陸側へ付加した地層と考えられており、スランプ構造やスラストなどが顕著に見られます。三崎層を不整合に覆う初声層はおもにスコリア質、ならびに軽石質の粗粒砂岩からなり、およそ400万年前に三崎層よりも浅い海で堆積したと考えられています。この観察会では、城ヶ島に見られる地層や断層、堆積構造、地形などを観察しながら、三浦半島の成り立ちとダイナミックな地球の姿について理解を深めることを目的として開催されました。

## 3. 当日の様子

当日の天候は雨。前日から雨が降り続けていましたが、観察会開始の時間には小雨となったため行事を決行しました。午前10時に城ヶ島バス停に集合し、受付と行事の概要を解説しました。その際に地質の日、ならびに国際博物館の日に因んで、記念品として露頭と化石の絵葉書を配付しました。また、リモートセンシング関係のお仕事をされている参加者からは、三浦半島の衛星写真が参加者全員にプレゼントされました。これらの記念品は、参加者にとって思い出に残るおみやげとなったようです。

観察会は三浦半島の西側から東側に向かって、南側の岩場を歩きながら行われました(写真1, 2)。はじめに地層の走向と傾斜、上下判定、岩相、断層など、地層観察の基礎を解説しました。それらの基礎に基づき、三崎層に認められるスランプやスラストによ



写真1 観察会の様子(1)。

1) 横須賀市自然・人文博物館  
238-0016 神奈川県横須賀市深田台95番地  
2) 横須賀市自然・人文博物館気付

キーワード：地質の日、地層見学会、三浦半島、三崎層、初声層



写真2 観察会の様子(2).



写真3 城ヶ島の火炎状構造.

る地層の繰り返し、タービダイト砂岩、火山灰鍵層などを観察しました。特に城ヶ島の火炎状構造(写真3)は見た目が綺麗であることから、多くの参加者が熱心に観察していたようです。最新の研究結果も一部紹介し、例えばプレート境界から派生したスラストである城ヶ島スラスト(Yamamoto *et al.*, 2005)も観察しました。これらの観察を終えたところで昼食となりましたが、同時に風雨が強くなってきたため、午後の観察会は中止としました。一旦解散し、希望者のみ続けて観察を行いました。雨にもかかわらず、多くの参加者が城ヶ島中南部にある馬の背洞門まで観察を続けました。

#### 4. おわりに

今回の観察会では40名以上の参加者があったため、参加者を大きく3つのグループに分け、それぞれのグループに1人の解説者がつきました。そのため参加者1人1人に丁寧な解説ができ、積極的な質問も多数飛び出しました。解説は博物館学芸員と活断層調査会顧問が行いましたが、このような観察方法は横須賀市自然・人文博物館と三浦半島活断層調査会の協力によってはじめて遂行できたといえます。この行事によって、地域博物館と市民団体の連携の重要性が改めて感じられました。

この観察会を通して、地質百選の1つである城ヶ島

を例にして、一般の方々に地質をより身近に感じてもらい、地質への興味・関心を深めていただくことができたと思います。雨天にもかかわらず、多くの参加者が熱心に地層を観察していたのが印象的でした。これまでに何度も城ヶ島を訪れていた参加者からは、「地層に注目して歩いたことはなかったが、地層の観察方法がわかってとてもおもしろかった」といった感想をいただきました。また、通常の博物館行事よりも多数の参加希望者があり、三浦半島以外にお住まいの方からも行事への問い合わせや参加がありました。これは、地質の日記念行事のポータルサイトや各種広報活動の成果といえるでしょう。著者らは、来年度以降も地質の日にちなんだ教育普及事業を展開し、一般の方々へ地質学のおもしろさを広めていきたいと考えています。

#### 文 献

Yamamoto, Y., Mukoyoshi, H. and Ogawa, Y. (2005) : Structural characteristics of shallow buried accretionary prism: Rapidly uplifted Neogene accreted sediments on the Miura-Boso Peninsula, central Japan. *Tectonics*, **24**, TC5008. doi:10.1029/2005TC001823.

全国地質調査業協会連合会・地質情報整備・活用機構 (2007) : 日本列島ジオサイト地質百選. オーム社, 東京, 181pp.

SHIBATA Kenichiro and Research Group for Active Faults in the Miura Peninsula (2009) : A report of the field excursion about "Geology of Jogashima".

<受付: 2008年10月14日>